

日本海洋学会 2013年度第7回幹事会 議事録(案)

日時：2014年3月17日(月) 13:30~17:30

場所：東京海洋大学品川キャンパス9号館203号室

出席者：植松会長、岡、川合、神田、久保田、杉崎、鈴木、原田、日比谷、山中、寄高、事務局毎日学術フォーラム(出戸、平坂)

欠席者：須賀副会長

議題：

1. 議事録(案)確認(神田・川合幹事)

2013年度第6回幹事会の議事録を一部修正の上、承認した。

2. 審議事項

(1) 入退会について(岡・小畑幹事)

2013年12月から2014年1月までの入退会を承認した。入会17名、退会5名、2014年1月現在会員数1805名。

(2) シンポジウム等の後援・協賛等について(岡・小畑幹事)

後援・協賛等6件について、メーリングリスト(ML)を通じて審議し承諾したことが報告された。

(3) 募集・推薦等の依頼について(岡・小畑幹事)

公募・推薦の依頼、その他シンポジウム・講演等の案内について、適宜MLを通じて周知、対処したことが報告された。

(4) 2013年度決算書および2014年度予算案(河野・寄高幹事)

2013年度の決算報告がなされ、承認された。大会開催および編集経費の戻り金があったほか、ニュースレター(NL)の編集経費に関わる支出削減があった。また、2014年度予算案の検討を行った。来年度は会員名簿の発行が予定されている他、消費税増税による支出増がある一方、JOのロイヤリティ収入が見込まれる。また、若手集会助成金を現在の10万円から30万円に増額する予定である。震災対応WGによる報告書の印刷代として、15万円程度を計上してほしいという要望があり、承認された。

(5) 2014年度海洋未来技術研究会海外渡航援助について(須賀副会長代理小畑幹事)

海外渡航援助の募集に対して応募のあった3件のうち2件を採択することが承認された。また、採択された1件の応募者が単位取得の上退学する予定であるが、応募の時点では学生であったため今回は問題ないことが確認された。

(6) 2014年度青い海助成事業の募集について(鈴木幹事)

本年度の募集に対して応募がなかったこと、再度募集をする可能性について、海洋環境問題委員会で今後検討することが報告され、承認された。

(7) 大会運営に関わる検討事項について(鈴木幹事)

大会開催に関して、現在の懸案事項および改善案などについて議論がなされた。その

結果、新たに「大会運営問題検討WG（仮称）」を立ち上げ、半年から1年かけて議論することとなった。メンバーは、過去の大会事務局長などの経験者、次回春・秋大会の実行委員予定者および幹事数名とする。主な検討内容としては、本大会の充実化（セッション制の導入等）、シンポジウムのあり方、実行委員会と幹事会の分業の機能向上化、参加費の見直しなどが考えられる。これらについて、会則の改定も含めて検討する。WG 設立については、次回評議員会および総会において報告を行う。また、2014年度予算案に、本WG 関連経費の計上は行わないこととなった。

(8) 受賞記念講演座長について（岡・小畑幹事）

学会賞・古谷会員の講演は田口哲会員、岡田賞・田村会員の講演は大島慶一郎会員、岡田賞・野村会員の講演は吉川久幸会員がそれぞれ座長を務めることとなった。

(9) 2014年度春季評議員会および総会議事次第案（岡・小畑幹事）

議事案が提示され、一部修正の後、承認された

(10) 2014年度「日本海洋学会若手集会助成」募集について（須賀副会長代理小畑幹事）

2014年度の募集案が提示され、承認された。前年度からの変更事項は、助成金額が10万円から30万円に増加されたこと、助成対象集会の実施時期の「8月から」を「6月から」に早めたことの2点である。

(11) その他

（鈴木幹事）

現在「青い海助成事業」のみを扱っている海洋環境問題委員会の名称を「海洋環境委員会」に変更することが承認された。

（小畑幹事）

「海の研究」用に作成した「転載許諾申請書」について、NL用にも同様のフォーマットで用意することとなった。JOについては英語版が必要であり、Springerに雛形の送付を要請することとなった。

（植松会長）

日本学術振興会賞受賞候補者および海洋立国推進功労者の推薦依頼について、会員の中からそれぞれ数名の候補者があげられ、最終選考は会長に一任することとなった。

2. 報告事項

(1) 会長（植松会長）

- ・海洋学会提案の1課題を含むマスタープラン2014が公表された。
- ・4月下旬にベトナムでWESTPACシンポジウムが開催される。
- ・3月14日にコロキウム「Fukushima and the Ocean」を開催し、約100名の参加があった。
- ・来年度予算と現在の執行状況を見たところ、大会戻り金や別刷り売り上げなどにより、若干楽な状況になってきた。更なる経営の健全化を図りながら、会員への還元も進めたい。

・今後も学会外の賞への推薦を積極的に行う。

(2) 副会長（副会長代理小畑幹事）

学会関連情報を NL 第 3 巻 4 号に掲載した。次回の評議会と総会ではここからの抜粋と追加情報を報告する予定である。

(3) 庶務（岡・小畑幹事）

・「アイソトープ・放射線研究発表会運営委員」に小畑幹事、「国際地学オリンピック組織委員会委員」に市川洋会員をそれぞれ推薦した。

・未納退会者からの再入会申し込みがあり、3 年未納分の会費支払いにより、再入会を承認した。尚、本学会では 3 年未納した場合に除籍ではなく退会扱いとなる。再入会の場合は、3 年分の会費を払って再入会できることを確認した。

(4) 会計（河野・寄高幹事）

会計監査が無事に終了した。

(5) 編集

・JO（日比谷幹事）

第 70 巻 2 号までを発刊した。1 件の投稿論文について、別の著者による出版論文と酷似した箇所が多く、かつ内容もオリジナリティに欠けていたため、ただちに却下するとともに著者に警告を与えた。また、JO 掲載料課金の開始について、評議員にメールで報告および意見交換を行った。評議員会でさらに審議する予定である。課金のシステムについては今後 Springer に相談して対応する。

・海の研究（久保田幹事）

第 23 巻 1-2 号を印刷し、順調に発行している。印刷業者の変更により、コストを大幅に削減できるようになった。

・NL（津田幹事代理岡幹事）

第 3 巻 4 号を発行した。次回編集委員会には杉崎広報幹事に参加してもらう予定である。また、巻頭記事の内容について提案してほしい。

(6) 研究発表（鈴木・山中幹事）

2014 年度秋季大会（2014 年 9 月 13-17 日、長崎大学文教キャンパスにて開催）と、2015 年春季大会（3 月末予定、東京海洋大学にて開催予定）の開催概要が報告された。

(7) 広報（杉崎・原田幹事）

学会紹介パンフレット（1000 部）が完成した。パンフレットは事務局で管理し、希望に応じて発送することとなった。また、pdf をネットに載せることが提案されたがその際には写真提供者に確認が必要である。

(8) 教育問題研究会（神田・川合幹事）

3 月 30 日に「海のサイエンスカフェ」を開催する。話題提供者は橋濱史典会員。

(9) 日本地球惑星科学連合（原田・寄高幹事）

2014 年度連合大会開催が 4 月 28 日から 5 月 2 日に開催される。2015 年度は幕張で開

催される予定である。また、地球惑星科学における顕著な功績や JpGU の活動への貢献を評価し、フェローとして処遇することを目的とし、JpGU フェロー制度が実施される。

(10) 海洋未来技術研究会・日本海洋科学振興財団（須賀副会長代理植松会長）

海洋未来技術研究会の会員勧誘について、大会期間中に関係者と相談する予定である。

(11) 震災対応（神田幹事）

2月17日に東日本大震災復興支援委員会汚染水問題対応検討分科会の第3回会合に参加した。来年度も引き続き参加する予定である。また、3月14日、東京海洋大学において英語でのコロキウム「Fukushima and the Ocean」を開催した。

(12) ブレークスルー研究会（岡幹事）

研究会のウェブサイトを公開した。現在の会員13名。

(13) 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

5月に会合が予定されている。

(14) 若手支援（須賀副会長代理小畑幹事）

春季大会中に若手との懇談会を行いたい。3月29日のポスター賞受賞式直後の15分程度を考えている。

(15) その他

（植松会長）

3月26日に Buesseler 氏と植松会長、神田担当幹事が米国大使館を訪問し、関係者にブリーフィングする予定である。

（日比谷幹事）

JpGU が発行する雑誌「Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)」について、日比谷幹事が編集担当者となっているが、海洋学会員の編集者を増やした方が良いのではないかという意見があった。この件については日比谷幹事と PEPS 編集委員の判断に一任することとなった。

次回幹事会

日時：3月26日（水）18：00－20：00

会場：東京海洋大学品川キャンパス9号館203号室（予定）